

甲斐市立玉幡小学校 令和3年度 学校だより 第15号



# チーム玉幡

令和3年11月30日 文責：小林 正彦

2021年も

あと一月



2021年もあと一月となり、学校では2学期の学習のまとめに取り組む時期となりました。12月は師走と言われ、何かと忙しくなりますが、学習内容の定着に向け、しっかり取り組みたいと思います。

道徳授業公開におけるアンケートへのご協力ありがとうございました。全てに目を通させていただきました。道徳授業の主題に対して、ご家庭でも子どもと一緒に時間をとっていただいたり、声かけをしていただいたりと、保護者の皆様方といっしょに取り組めた時間になりました。ご協力をいただき本当にありがとうございました。いただいたご意見は、今後の活動に生かしていこうと思います。

## いざ鎌倉、静岡へ～修学旅行～

11月25日(木)、26日(金)の2日間、6年生は修学旅行に出かけました。本来は、5月中旬に予定されていましたが、感染症の影響でこの時期になってしまいました。『みんなで楽しく学び 思い出に残る修学旅行!』をテーマに、鎌倉・静岡へ出発しました。その時の様子を紹介します。

一日目には、古都鎌倉を満喫しました。まずは、円覚寺での坐禅体験をしました。ぴりっとした緊張感あふれる空間の中、心静かに時間を過ごしました。その後、鶴ヶ岡八幡宮と大仏を見学しました。例年行ってきた「グ



ループ散策」は、当初、感染症対策で実施しない予定でした。しかし、感染症の状況が落ち着いていたので、限定の区間でグループ行動を実施しました。先生がいない状況の中、グループで助け合いながら行動していました。お互いに声を掛け合う様子は、とても楽しそうでした。

二日目は、静岡県の〔あわしまマリンパーク〕〔三島スカイウォーク〕〔箱根関所〕を見学しました。見て聞いて、実際に歩いて、肌で感じてと、全身のセンサーをフル稼働して過ごした時間は生きた体験活動そのものでした。お土産を買える時間も設定されていましたが、いつもよりちょっと自由に使えるお小遣いを手に、品物を見定めている様子は生き生きしていました。



6年生は、この2日間、自分の役割や様々な活動、先生や友だちとの関わりの中で、一人一人が素直に自分らしさを表現することができました。この2日間で、「協力」「絆」「思いやり」「葛藤」「譲歩」「協調」「自己表現」…数え切れない多くのことを学んだことと思います。

6年担任の先生方が行った事前指導が



生かされた2日間でした。些細なことかもしれないかもしれませんが、話し手の方を見て、時にはうなずくなどしながら話しを聞く姿勢。問いかけに対してきちんと反応を示す礼儀正しさ。時計を見ながら予定時刻を意識して行動するリーダー。班や部屋のメンバーを思いやる声かけ等。とかく場所が変わると教室内と同じようにいかないことも、6年生は旅行中実行していました。さすが、頼もしい玉小の最上級生の姿でした。

最後に、6年生保護者の皆様のおかげで、無事に修学旅行を実施することができました。延期やコース変更等、ご心配やご迷惑をおかけしましたが、ご理解をいただきありがとうございました。6年生児童には結団式の時に話しましたが、行けることが当たり前ではなく、周りの方々のおかげで行くことができた、そんな『感謝』の気持ちを子どもたちが持ってくれたらと願っています。

## 一回り遅しくなって・・・ ～児童会役員選挙を終えて～

来年度の児童会会長・副会長を選出する児童会役員選挙活動が、11月18日に終了しました。今回の選挙活動を通して、4・5年生児童の中に、リーダー学年としての自覚ができてきたと信じています。

立候補した子どもたちにとって、とりわけ立会演説会は、成長のよい場になったと思います。あの空気感、あの場のあの雰囲気、あの緊張感、あの一瞬のあの焦り、あの不安、あの満足感、あの達成感・・・いろいろな「あの」は、演説を行った候補者と責任者にはよく分かると思います。

候補者・責任者は、事前に自分にできることを全て行って演説に向かい、演説を通して自分の思いや考えを主張しました。当日に表現することは、ものすごいエネルギーが必

要だったと思います。今回の経験が、次なる活動への『やる気』につながることを願っています。当落の結果はありますが、そのこと以上に、取組自体に大きな意味がある立会演説会・選挙活動だったと考えています。

学級内でも候補者の応援のために、全員が何らかの役を担当し取り組んだことと思います。「仲間意識」もきっと芽生えたに違いないと確信しています。



立会演説会において候補者と責任者全員が、会場の方を向いて、大きな声ではっきりと発表している姿は「さすが玉小のリーダー」だと感心しました。その陰で、先生方の指導もあったと思いますが、着実に力をつけてきている子どもたちを見ると、頼もしく、そして嬉しく思いました。候補者が公約であげた取組が、今後どのように実現されていくか、楽しみになりました。学校としてできる限りバックアップしていこうと思います。

また、演説を聞いていた3年生以上の子どもたちの態度も大変立派でした。良い緊張感を作り出していた要因の一つとなっていました。投票時の「無効票0」という状況に、真剣に臨む姿勢が表れていると思いました。



最後に、選挙管理委員の子どもたちも、今回の選挙活動を支えていた原動力です。休み時間も返上で準備を行い、当日の運営も立派にこなしていました。子どもたちのがんばりをとても有り難く思います。そして、その活動をずっと支援していた先生方にも感謝したいと思います。

